



糸魚川市立糸魚川小学校

学校だより 第10号

令和7年2月25日

TEL:025-552-0042 FAX:025-552-1304 E-mail:itosyo@itoigawa.ed.jp

(HP)<https://www.itoigawa.ed.jp/itosyo/>(携帯)<http://itoigawa.ed.jp/itosyo/otayori/i/>

しつける

校長 富永 浩文

昨年秋のこと、6年生が家庭科でトートバッグを作っていました。縫いしろをとり、折りたたんでミシン縫いをします。縫いやすいように、まず大まかにしつけ縫いをします。悪戦苦闘しながら縫う姿を見ると、微笑ましく感じます。しつけがあるので、きれいに縫い上がります。『しつけ』って大切だなあ。無駄な糸ではないのだなあ。」と、しみじみ思いました。

昔のことを思い出しました。もう30年も前の話です。私事ですが、イギリスに3か月滞在し、現地の小学校に通ったことがあります。毎日が新鮮な驚きの連続でした。その一つを紹介します。その学校では、授業が変わるとき、通常整然と列になって教室移動します。校内にはあちらこちらにガラス扉があって、何回か扉を開けて通ります。先頭の子どもは扉を開け、閉まらないように手で支えます。そして、全員が扉を通った後、扉を閉め、一番後ろから列についていくのです。それが習慣となっているようでした。



とった後 美しくなるように

休み時間、私が職員室に行こうとすると、ガラス扉を挟んで向こうから一人の男の子が来ました。ガラス越しに一瞬目が合いました。次の瞬間、さっと扉の取っ手を持って開けました。そして、微笑みながら「どうぞ」と、私を先に通してくれました。「ありがとう」と言うと、「どういたしまして」と答えました。私が通った後、何事もなかったかのように男の子も扉を通して歩いていきました。他の先生、友達の場合であっても同じようにしていました。集団行動の中でしつけられ、心と体にしみついていて、どのような時でも気づいてできるのですね。

休日、私は街に出かけました。デパートに入ろうと、人の波に乗りました。開いている扉を通り過ぎようとして、ふと横に目をやると、ここでも一人の男の子が扉の取っ手を持って、家族らしい人と、入ってくる人を通していました。家庭や社会生活でもしつけられ、こうしたことを習慣的に行っているのでしょう。私は、自然でさりげない子どもの態度に感心しました。

さて、2学期末、ある日の糸魚川小学校。職員室近くのガラス扉の所で一人の男の子と遭遇しました。目が合ったその子は、先に扉を開けて私が通り過ぎるのを待っていてくれました。当校にもありました。さりげない、自然で美しい振る舞い。「ありがとう。」と私。その子は照れながらニコッと笑いました。何気ないやり取りでしたが嬉しくなりました。その子には「しつけ」によって自然に身についた所作なのだと思います。

ある人のこんな言葉を思い出しました。「しつけとは、掛けることではなく、とったあとに、美しい姿が無理なくあるようにするためのもの。」と。日常生活に美しく、さりげなく生きる「しつけ」を心がけたいものです。過度の「おしつけ」にならないようにしたいですね。ちなみに、「しつけ」とは「躾」と書きます。家庭教育で理想としたい素敵な漢字です。